



園長便り



2020年2月3日発行

セブンスデー・アドベンチスト石川教会付属 石川三育保育園

先日、モーセ組さんと八重岳に桜見に行ってきました。桜がきれいに咲いていました。園バスの車中では歓声が聞こえます「さくらだ！」と。昼食の時間は普段お部屋でお食事をいただいておりますが、この日は広い桜公園で、青空のもと、お食事をいただきました。この日はとても楽しい時間を共に過ごすことができ感謝です。

今月は、牧師たちのスキルアップのための研修がありました。東京都立川市で行われましたが、久しぶりの都会で戸惑うことがありました。まず、電車に乗る時間を調べませんとラッシュ時間とかち合っ過ぎてぎゅうぎゅう詰めになります。一旦降りて駅のトイレに行きますと、行列ができています。また、駅を出てバス停に行きますとバスを待っている人の行列がありました。どこに行っても都会では人が大勢います。しかし、お母さんがたの知恵ですかね。幼い子どもを見かけることはありませんでした。

今回は幼いお子さんの泣き虫とかんしゃく持ちについて考えたいと思います。ご参考にいただければ幸いです。泣き虫の子とかんしゃく持ちの子を時より町で見かけますが、ご両親とお子さんにとってはどちらも苦労します。そこで、これらのことを書いた文書が見つかりましたので引用します。

「泣きわめいたり、床をけつとばしたり、のた打ち回って泣くようになれば、これはもうれっきとしたかんしゃくもちです。ここでもやはり、予防は治療より簡単で、方法は比較的容易です。この本の幼児の訓練に関する項でもとりあげていますが、次に、簡略に述べてみましょう。

- (1) 静かで簡素な生活環境と、家族の規則正しい生活パターンを維持していくこと。騒がしい音楽や身の回りの乱雑さを含めて、疲労や騒音は、みんなをおこりっぽくさせます。不規則な食事や間食は、胃の調子はもちろん、気質をも乱します。
- (2) 子どもには、家の中をあちこち歩き回るそれなりの自由を与えましょう。しかし、子どもの手の届く範囲に、危険なものはないことを確かめること。この根本的な原則は、両親ともに、始めから、一貫して徹底的に実行してください。
- (3) 余分なエネルギーを発散させ、欲求不満を解消するために、戸外で運動する機会をたくさんつくります。
- (4) 機転をきかせ、思いやりを示し、いつも子どもの気を上手にそらせて、正面衝突を避けます。
- (5) 決して子どもに怒りをぶつけないこと、言葉にも、行為にも、声の調子のなかにも、乱暴に突きとばしたり、けったり、手を上げたりするのも禁物です。

次にかんしゃくを、静める方法をいくつかご紹介しましょう。

- (1) 幼児やごく小さい子どもに効果的な方法は、しっかり押さえるようにだき、同時に、静かな声で語りかけるか、耳もとでそっと歌ってあげることです。
- (2) より大きな子どもに対しても、交換条件を出すのではなく、気をそらすために、かんしゃくを起こしはじめたら、すぐに子どもをつかまえて、(1)にあげた方法を用いるなら、効果あるでしょう。
- (3) さもなければ、できるだけ平静に、そっと無視することです。子どもは、怒りに注目してほしいのですから、手をあげたり、がみがみ叱ったり、親の方で怒ってしまうのはよくありません。
- (4) 子どもの気持ちが落ちついてきたら、だいてあげて、『そんな小さなことであんなかんしゃくを起こすなんて、お母さん悲しいわ』と言って、優しく愛を示してあげましょう。もう二度と同じことをくり返さないという気持ちを起こさせてください。知っている子どもが、同じようにかんしゃくを起こしたけれど、後で、もっとよい子どもになったなどという短い話をしてあげるとよいかもしれません。それから、すぐに、何事もなかったかのように、楽しく、活動的なことをやり始めましょう。子どもが好きだとわかっている仕事を一緒にやらせるのもよいでしょう。

(Dr. モーア夫妻の『手づくり家庭教育』108～110 ページ)

石川三育保育園 園長 富浜宗言